

アジサイ根腐れ症状の原因と防除対策

アジサイの育苗期に発生する根腐れ症状の原因を究明し、新病害「茎根腐病」と命名しました。ポットへの鉢上げ時に、ユニフォーム粒剤を土壌混和すると、高い防除効果が期待できます。

2014年以降、県オリジナル品種‘万華鏡’において、ポット苗の地際部の茎、根が水浸状に腐敗し、株が萎れ、枯死する症状が多発生し、大きな問題となりました。

1. 原因究明

発病株から菌の分離をした結果、4種の卵菌が分離されました。分離菌をアジサイに接種し症状が再現されたため、原因は4種の卵菌であることが判明しました。本病原菌によるアジサイの病害は国内外で報告がなく、茎根腐病（くきねぐされびょう）と命名しました。

2. 防除時期の検討

アジサイの生育ステージと発病との関係を調査した結果、ポット鉢上げ時で最も激しく発病し、鉢上げ時の防除が重要と考えられました。

3. 薬剤防除

卵菌に対して防除効果の高い農薬として知られるユニフォーム粒剤による防除を検討しました。ポット鉢上げ時に土壌1L当たり本剤0.25gを混和したところ、本病原菌4種全てに対して高い防除効果が認められました（図）。



図 薬剤の防除効果

4. 成果の活用方法と留意点

- 1) ユニフォーム粒剤は、2018年8月にアジサイの茎根腐病に農薬登録が適用拡大され、現地で使用されています。
- 2) 本剤はセル苗からポット鉢上げ時に使用し、薬剤と土壌をよく混和して使用します。
- 3) 省力、安価（約0.2円/株）に処理できます。
- 4) 農薬の使用に当たっては、ラベルの記載事項（適用作物、使用時期、使用方法等）を確認してください。

問い合わせ先：資源環境研究部病虫科（担当:永島 進）

TEL 0853-22-6772

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp